

徳島県

社会福祉士会だより

一般社団法人 徳島県社会福祉士会 広報誌
Tokushima Association Of Certified Social Workers

VOL. 29

いのち、権利、暮らしをまもり
支えるソーシャルワークから
人と地域をつなぐ縁結び社会へ

私たちを取り巻く社会は、少子高齢化や人口減少、家族形態や地域関係の変化により、生活課題が一層複雑化・多様化しています。国においては、地域共生社会の実現に向けて創設された重層的支援体制整備事業の推進状況を踏まえつつ、制度や分野のはざままで支援が行き届きにくい現状や、身寄りのない高齢者等が抱える課題への対応について議論が進められています。

こうした動きは、支援の在り方を制度中心ではなく、生活者の視点から捉え直すことの重要性を示しています。養成課程や現場実践において基盤となっているジェネラリストソーシャルワークの考え方は、個人や家族への支援にとどまらず、地域、組織、制度へと働きかける実践を統合的に捉える視点として、現場実践の基盤となっています。ミクロ・メゾ・マクロの各レベルを往還しながら、複合的な課題を抱える人や世帯を丸ごと受け止め、関係機関や住民と協働していく姿勢は、徳島における地域福祉の推進において、ますます重要となっています。

こうした実践を支えるためには、現場で活動する社会福祉士同士が悩みや経験を共有し、互いに学び合い、支え合うことが不可欠です。本会は、分野や職域を超えたつながりを大切にしながら、会員が安心して専門性を発揮できる環境づくりに努めてまいります。

また、社会福祉士が地域から信頼される専門職であり続けるためには、専門的知識や技術に加え、倫理綱領に基づいた判断と行動を日々の実践の中で積み重ねていくことが不可欠です。本会では、研修やスーパービジョン、権利擁護の取り組み等を通じて、専門性の向上とともに倫理意識の醸成と実践力の強化に、より一層力を入れてまいります。

県民一人ひとりが自分らしく安心して暮らし続けられる地域共生社会の実現に向け、私たちは専門職としての責任と誇りを胸に、QOLとウェルビーイングの向上を目指した実践を重ねていきます。

結びに、理事一同、本会の目的達成に向け誠実に取り組むこととお約束するとともに、会員の皆さま、関係機関、県民の皆さまのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

会長 湯浅 雅志



 一般社団法人 徳島県社会福祉士会

〒770-0943 徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 徳島県立総合福祉センター3F
TEL 088-678-8041 FAX 088-678-8042

E-Mail info-tokushima@tacsw.jp URL <https://www.tacsw.jp/>



四国地区社会福祉士合同研修会



2025年12月13日（土）・14日（日）、徳島県立総合福祉センターにおいて、四国地区社会福祉士合同研修会を開催いたしました。四国各地から104名のご参加をいただきました。

基調講演では、全国第1号のコミュニティソーシャルワーカーとして、制度の狭間でSOSを出せない人々と向き合い、その活動を大阪府や国の地域福祉モデルへと発展・展開されてきた、豊中市社会福祉協議会の勝部麗子氏にご講演いただきました。



ようこそ 徳島へ



基調講演

「ひとりぼっちをつくらない」 ～すべての人に居場所と役割を～

講師 社会福祉法人豊中市社会福祉協議会 勝部 麗子 氏

地域の人や、課題を抱えている人がいたり、困ったことがあった時に社会福祉協議会に電話をしてくれる。電話をしたら道が開けるんじゃないかって思ってくれている。電話を受けたときには、「電話をしてきてくれてありがとう。繋がったからね。」と言うと、また何かあったら連絡しようと思ってくれている。今まで困っている人と真摯に向き合って取り組んできた。その積み重ねの中で、町がだんだんひとりぼっちを作らない町になってきた。

「一番厳しい人を見捨てる社会は誰もが見捨てられる社会」だと思っている。誰もが助けがいる生活になりかねない。助けることが実は、自分たちが暮らしやすい社会を創っている

私たち専門職は人のできないことを見つけるのが得意、でも、いいことを見つけることでその人の見方が変わってくる。得意なことを地域でどうやって生かしていくかなんです。安心と安全だけではないもう一つ自分というものを発揮できる場所を一つでも作れるか、一緒に考えていけるかと思う。

ソーシャルワーカーは傾聴することを学ぶけれど、傾聴ばかりでなく、地域を変えていくとか、地域づくりをしていくために発信していく力、言葉にしていくことがとても大切です。

大阪万博の舞台に生活に課題がある方たちと一緒に立った。その時のスローガン「繋がり人は元気にし、役割が人を輝かす。」そんな共生社会を一緒に創っていきましょう。



飯田 菜心さん

「支え合いの循環」という言葉が印象に残っています。誰だって出来ることがあり、地域で居場所と役割を持てるように支援することがソーシャルワーカーの仕事であることを学ばさせていただきました。

「断らない」相談支援と「誰一人見捨てない」アウトリーチの実践。制度の枠を超えた地域を編み出す実践に深い感銘を受けるとともに、社会福祉士として大きな学びになりました。



平野 美鈴さん

勝部さんの「助ける人は助けられ上手」という言葉のとおり、ひとりで抱え込まず、必要なときに仲間と頼り合えたことが、研修を共に作り上げていく大きな力になりました。

温かな時間をありがとうございました。



担当実行委員
縄井 未佳さん



シンポジウム

「いのち・権利・暮らしをまもり、支えるソーシャルワーク」をテーマに、地域で実践をされている3名の方に事例を踏まえながらお話をいただきました。

また、基調講演に引き続き勝部麗子氏に助言をいただき、コーディネーターを湯浅雅志会長が務めさせていただきました

社会福祉法人香美市社会福祉協議会生活相談センター香美 所長 徳弘 博国 氏



徳弘 博国 氏

マズローの欲求5段階説によると、高位の欲求を実現させるためには、低位の生理的欲求・安全欲求が満たされなければ社会的欲求・承認欲求・自己実現欲求は満たされない。生理的欲求・安全欲求までは守れていても、その上の欲求について向き合っているか。どれだけ応えられてるかなと考える。私たちがすべきことは丸ごと受け止めることであり、断らないことであり、制度の狭間を作らないことだと思う。

社会福祉法人三好やまなみ会 ワークサポートやまなみ 施設長 岩城 貞時 氏



岩城 貞時 氏

「何度でもやり直せる社会」であるために、主体である地域住民や地域の多様な主体をどう作っていくか。地域住民とはいったい誰なのか？ということを考えている。ソーシャルワーカーも一地域住民として地域と関わる時間を持ちながら一緒にやることが大切なんじゃないか。ワークライフバランスの考え方として、プライベートな時間を地域に費やす時間に地域の役割にこだわって過ごしている。

特定非営利活動法人とくしま絆ネット 理事 西條 志野 氏



西條 志野 氏

後見制度の見直しがされていく中で、私たちがどんな風にソーシャルワークを実践していくのか、意思決定を中心としてやっていけるのかが問われているように感じている。

本人らしさとは、援助者が生きている世界ではなく、本人が生きている世界の中で本人を理解することです。それぞれの場所で、志を持ってソーシャルワークを実践していくことで、少しずつ良い方向に向かっていくんじゃないかと思う。



荒岡 晶子さん

今回久しぶりに徳島での開催であり、楽しみに参加いたしました。日頃から実践を積み重ねておられる3人のシンポジストからの発表であり、とても学びに繋がりました。

社会福祉士として人を支える支援の大切さを、発表や意見交換から自分自身再認識し、日々の実践に生かしていきたいと思いました。



勝部麗子氏と徳島文理大学の学生さん



担当実行委員
森泉 摩州子さん

福祉を学ぶ学生にとっては現場の実践を知る機会であり、25名の学生が参加し、講義とは異なる「リアル」を体験することができました。熱心にメモをとり、先輩SWのあふれる熱意に触れ、人とのつながりに流れる優しさが社会を変えていくことを実感したようでした。どのような社会福祉士をめざすのか今後が楽しみです。

交流会



「Awa Our Hour」をコンセプトとして、「徳島らしい演出」による「おもてなし」に心を砕きました。徳島の特産、伝統、文化、そしてあたたかな県民性を随所でアピールできたと思います。思い出に残る一幕となれば幸甚です。



担当実行委員
由良 徹さん

分科会

研修会の2日目は、「生活構造」・「福祉経営」・「実践研究」3つの会場に分かれて、分科会が行われました。また、徳島県からは3名の方が発表をされました。



第1分科会：生活構造

「精神科SWによる障がい者の地域生活支援」 ～生活構造と課題～

社会医療法人あいざと会 藍里病院
住友 裕恵さん

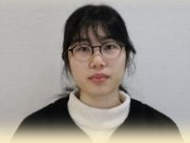
第1分科会のテーマは「生活構造」でした。他県発表者からはひきこもり支援や地域移行支援について報告がありました。私は精神科SWによる障がい者の地域生活支援と題し、知的障がいのあるAさん、精神障がいのあるBさん、それぞれが社会的つながりをもちながら本人らしい暮らしを自分で見つけていくという事例を報告しました。質疑応答ではBさんのケースについての質問が多く、精神障がい者支援への関心の高さがうかがえました。



生活困窮者支援や地域移行支援の実践について、日常業務の積み重ねに触れるコメントをいただきました。

助言者 徳島大学大学院
助教 北村 美渚氏

対象者への接し方がすごく勉強になった。的確に感情を読み取り、次のステップに移れるようそれぞれの対象者に合った支援を行っていた。また、福祉職のやりがいも知れて良かった。



尾西 杏菜さん

実践事例を通し、生活全体をどう読み解くかという視点の重要性が共有された分科会となりました。



担当実行委員
林 朋代さん

第2分科会：福祉経営

「求職者の福祉・介護サービスへの 参入の壁」

社会法人白寿会 阿波老人ホーム御所園
縄井 未佳さん

「福祉経営」をテーマに、人材育成による退職者減少の実践、意思決定支援を重視した法人運営、ウェルビーイングを軸に顧客満足度と職員満足度の両立を目指す取り組み、ノーリフティングケアの導入によるケアの質向上と経営の安定を図る発表があり、多くの学びを得ました。私は、福祉分野への参入の壁をテーマに、求職者の意識を可視化する発表を行い、助言をいただくことで人材確保や発信の在り方を見つめ直す機会となりました。



経営の先人たちの言葉を例に上げ、常に自己研鑽や改革の必要性を示唆して頂きました。

助言者 どりーまあサービス
理事長 山口 浩志氏

人材の確保が年々厳しくなっているなかで、どのように確保し、定着させ、育てていくか、様々な視点から学ぶことができました。ハード面、ソフト面ともに職場環境を整えることも、利用者支援に集中できる環境に繋がるのだと思いました。



西藤 まさみさん

現場を支える人材を育成するためにはソーシャルワークを発揮する環境作りが何より大切だと認識できました。



担当実行委員
荻田 靖子さん

第3分科会:実践研究

「BBS会員の増加に向けた 取り組みの充実について」

元高松保護観察所 由良 徹さん

次代の更生保護や社会福祉の担い手、まさに「人材」「人財」である若者に対し、いかにして活動の意義や魅力を発信し、組織の活性化を図っていくかという点が主眼でした。これは社会福祉士会にとっても共通の命題だと思います。折しも、23年余り勤めた更生保護官署を退職し、12月1日から徳島県職員として新たなスタートを切った私としては、更生保護への惜別と福祉職としての自らを鼓舞するエールであったと思っています。



助言者 徳島文理大学
教授 森泉 摩州子氏

専門職の社会福祉士として課題に直面した際、場面一つ一つを検証することの大切さ等ご助言いただきました。

支援の際、チームとして進めていくことの重要性を改めて感じました。情報の発信は、私自身も大事だと考えていたため、どのような形でも知る機会があるといいなと思いました。



日野 美咲さん



担当実行委員
大下 薫さん

実践研究という難しいテーマにもかかわらず、座席が足りなくなるほどの多くの方々にご参加いただきました。

皆さまの尽力により、学びと交流の深まる研修会となりました。講師や発表者の皆さまの実践に基づくお話は、私たちに多くの気づきと学びをもたらしてくださいました。交流会においても、さまざまな工夫と準備をしてくださり、互いの距離が縮まり、より親しくなる貴重な時間となりました。研修と交流を通して生まれたつながりを力に、明日からまたそれぞれの現場で、前を向いて取り組んでいきたいと思ひます。心より感謝申し上げます。

実行委員長 湯浅 雅志



実行委員の皆さん

徳島県鳴門病院医療福祉相談室 服部 百恵さんからバトンが渡されました！

リレートーク



とくしま医療センター東病院 地域医療連携室
医療社会事業専門員(医療ソーシャルワーカー)大森 和幸さん



社会福祉士として歩み始めて25年——私は「もう25年」ではなく、「まだ25年」と考えています。いまもなお、うまくいかない支援に直面し、どのように実践を展開すべきか葛藤し悩むことばかりで、自分の未熟さに押しつぶされそうになる瞬間があります。それでもバーンアウトせず歩み続けてこられたのは、徳島県をはじめ全国の志ある仲間との出会いがあり、学びを分かち合っただけで、心から感じています。

その出会いの中でも、認定社会福祉士認定研修のファシリテータの皆さまとの学びは、まさに積み重ねの結晶です。ふだんはオンラインで顔を合わせることが多い私たちですが、年に一度、日本医療ソーシャルワーカー協会全国大会の会場で再会した瞬間、胸の奥が一気に熱くなります。画面では伝わらなかった表情や息づかい、言葉の力。それらが重なり合う空気に触れると、「もっと学んで頑張ろう」という気持ちが湧き上がり、自然と身体が前へと動き出します。この時間は、私にとって実践を続けるための“エネルギーチャージ”の場になっています。

私は今でも理論やモデルに苦手意識があり、「現場が一番」とどこかで逃げていた部分があります。しかし、認定社会福祉士取得に向けた研鑽や、認定研修ファシリテータとしての活動に真摯に向き合い、価値・倫理、理論・モデル・アプローチを学び続けたことで、クライアント支援が立体的に構造として見えるようになったと実感しています。「学べば学ぶほど実践が変わる」という感覚を、今まさに噛みしめています。大会では毎回、懇親会を開き、共に学びを深め合う仲間の熱意に触れています。東北、関東、近畿、四国、九州と全国各地から集う中で、徳島県の社会福祉士が多く参加していたことも私の力になりました。人は人によって動かされる——その力を強く実感しています。

今回の懇親会は、上級認定社会福祉士合格のお祝いも兼ねていましたが、写真からも仲間を称え合い、励まし合うエネルギーが伝わるのではないかと思います。こうした熱い志を持つ仲間がいる限り、私はこれからもソーシャルワーカーとしての実践を続けていけると、心から感じています。



リーガル ソーシャルワーク委員会

委員長 湯浅 雅志

リーガルソーシャルワーク委員会では、司法と福祉の連携を基盤に、更生支援や犯罪被害者支援などに関心のある会員の交流と人材育成に取り組んでいます。徳島弁護士会との協定に基づき、刑事弁護に関わる社会福祉士の派遣に対応できる体制づくりを進めています。現在は、実践経験のある会員と新たに参加した会員が意見交換を行う勉強会をオンライン等で開催しています。関心のある会員の参加をお待ちしています。

相談活動委員会



委員長 湯浅 雅志

相談活動委員会では、相談援助に携わる社会福祉士のつながりを大切にし、交流を通じた気づきや支え合いを目的に活動しています。ソーシャルワーク実践学習会では、県内で活躍する会員等の実践を題材に、意見交換や情報共有を中心とした場づくりを行っています。また、医療ソーシャルワーカー協会や精神保健福祉士協会、養成校等の関係団体と連携し、ソーシャルワーカーデーの開催にも取り組んでいます。気軽に参加いただけます。関心のある方のご参加をお待ちしています。

こども家庭福祉委員会



委員長 大下 薫

今年度こども家庭福祉委員会では、こども・子育て支援における関係機関でご活躍されている方々をお迎えし、それぞれの現状や社会福祉士との連携についてお話を伺っています。

昨今、学校現場では不登校への対応が大きな課題となっているため、県教委いじめ・不登校対策課ご担当者から本県の不登校の現状をお聞きしたり、不登校経験者を数多く受け入れている通信制高校の校長先生から、一人ひとり丁寧に粘り強く対応され、ほとんど中途退学者を出さない熱意ある取り組みを伺いました。また、現役のスクールソーシャルワーカーである会員の方からは、多機関が連携して困難事例を一つの解決へと導いた好事例をご紹介いただきました。加えて、不登校の児童・生徒にも多く見受けられる発達特性を持つお子さんを受け入れられている療育現場の施設長様から、一人ひとりの状況や事情に合わせ対応されているようすをお聞きしたり、病院で稼働する公認心理士の方からWISC検査の結果を支援にどう活かすかなどを伺いました。

こどもの意思表示についても焦点を当て、児童相談所の方から本県におけるこどもの意思表示支援の現状について、また、実際に香川県でこどもアドボケイターとしてご活躍されている方からオンラインで香川県における支援の実情についてお話を伺いました。

このように、本委員会では実際の支援に活かせるような研修ができるよう努めています。ご興味がある方はどうぞご参加ください。



災害対策委員会



委員長 荻田 靖子

災害対策委員会では、平時から様々な団体と連携し関係作りを行っています。さらに、四国ブロック社会福祉士会では災害対応マニュアルを策定しており、令和8年度以降の災害対応の幹事・副幹事県を確認すると共に、今後の災害対応について各県の取り組みについて情報共有を行いました。

国家資格等 取得支援委員会



委員長 森泉 摩州子

社会福祉士全国統一模擬試験を10月に実施しました。新カリキュラム2回目の国家試験の難易度はあがると不安に思うなかでの実施でしたが、基本事項やよく出題される重要事項を振り返る機会になったと思います。試験当日までは体調を崩さないようお伝えしました。対策講座は受講人数に達しなかったため中止しました。

権利擁護センターぱあとなあ徳島では、成年後見人養成研修を修了した会員（2025年12月末現在：52名）が専門性を活かして行う後見活動への支援、権利擁護及び成年後見制度に関する広報啓発・相談活動、行政・専門職団体・社会福祉協議会等の関係機関との連携による権利擁護支援の地域連携ネットワークの構築に向けた取り組み等を行っています。

そのような中、ぱあとなあ徳島会員による倫理綱領及び行動規範に違反する行為が判明し、2025年9月、本会ホームページにて当該会員の懲戒処分を公表いたしました。この不祥事により、被保佐人及びご本人を支える支援機関の皆様方に多大なご迷惑とご心配をおかけしましたこと、並びに、成年後見制度への信頼を揺るがす事態となりましたことを、心より深くお詫び申し上げます。

ぱあとなあ徳島ではこの度のことを猛省し、あらためて各会員が社会福祉士倫理綱領・行動規範を胸に刻み、再発防止と信頼回復のための取り組みに全力で努めてまいります。

会員の懲戒処分を受け 再発防止と信頼回復のための今後の取組方針

【短期的な取組方針】

- (1) 被保佐人・関係者への謝罪
- (2) 会員・関係機関への適切な報告と説明責任の履行
- (3) 緊急倫理綱領研修の実施と今後の受講義務化
- (4) 不祥事を踏まえた効果的な研修の実施
- (5) 面談（内部監査）の確実な実施
- (6) 業務監査委員会への報告

【長期的な取組方針】

- (1) 定例会における倫理綱領・行動規範をテーマにしたケーススタディ研修の導入
- (2) 社会福祉士会に「不正防止とリスク軽減を図る仕組みづくり」を検討する組織を設置
- (3) 受け皿としての法人後見の実施を検討
- (4) 社会的信頼回復のための広報活動

生涯研修センター



委員長 杉本 亜矢子

2025年度は、基礎研修Ⅰ 5名、Ⅱ 5名、Ⅲ 8名の方の皆さまの自己研鑽への高い熱意とご協力により、すべての課程を無事修了することができました。

社会福祉士として求められる役割と価値を身につけ、キャリア形成の基盤を築くための**重要な**基礎研修です。

また、2025年度四国地区社会福祉士合同研修会が盛会のうちに終了しましたことを、重ねてお礼申し上げます。

各研修が、社会福祉士としての専門性の向上と質の担保の機会として、今後も活用されることを期待しております。



基礎研修Ⅰ受講者の皆さん



基礎研修Ⅱ受講者の皆さん

基礎研修Ⅲ修了生インタビュー

平岡 彩子さんにインタビューしました！

Q1 基礎研修を受講した動機を教えてください。

知り合いの社会福祉士の方から勧められて受講しました。

Q2 社会福祉士としての今後の目標を教えてください。

今後、キャリアコンサルタントの勉強をしていく予定です。年齢や立場に関わらず、職業人としてどのような知識や経験を積み上げていくかは、生きていく上で案外重要です。しかしこれまで十分に学ぶ機会があったとは言えません。

そのため私は社会福祉の視点を持ちながら、今後関わっていくクライアントの方たちに、自分のキャリア形成やメンタルヘルスケア、働きやすい職場環境づくりなどのお手伝いできればと考えています。



基礎研修Ⅲ受講者の皆さん



会 員 紹 介

地方独立行政法人徳島県鳴門病院 医療社会福祉課課長
公益社団法人日本医療ソーシャルワーカー協会 理事
認定上級社会福祉士 郡 章人さん



VOL. 5

「認定上級社会福祉士」に認定されて想うこと

2025年4月に、認定社会福祉士認証・認定機構が認定する「認定上級社会福祉士」の審査試験に合格し、全国第一号の“合格証書”、“認定上級社会福祉士の認定証”を頂くことができました。認定上級社会福祉士は、全国で2名、その内の1名として認定されました。

認定社会福祉士制度の創設背景は、「社会福祉士及び介護福祉士法等の一部を改正する法律」（2007年）に対する付帯決議において、社会福祉士の「資質向上の責務」が新たに規定されたことが端を発しております。「高度で専門的なソーシャルワーク実践が行える人材として、専門社会福祉士の仕組みについて検討すべき」という社会的要請に基づき、日本社会福祉士会、日本医療ソーシャルワーカー協会等の6団体を構成団体とする「認定社会福祉士認証・認定機構」が設立されました。この機構が社会福祉士の分野毎の認定資格である「認定社会福祉士」（医療、高齢、こども家庭、障害、地域多文化）と、その上位認定である「認定上級社会福祉士」の資格認定を行っております。私は、2013年に認定社会福祉士（医療分野）（徳島県第一号）の認定を受け、2度の更新を達成し、この度、「認定上級社会福祉士」の審査申請及び受験に至り、合格・認定を手に致しました。

私が18歳の時、父が末期の肺がんとなり、闘病生活の上、他界しました。この時の経験から、医療現場で生活上の心配事や不安を抱える患者さんやご家族の支えになりたいと思い社会福祉士の途に進みました。「今日ある事を感謝して、日々、最善を尽くして進むべし」。私の卒業高校の校訓です。患者さんやご家族との出会いは、社会福祉士としての沢山の学び、成長の課題を残してくれます。そのようなきっかけを残してくれた患者さんやご家族への感謝への気持ちを大事にし、日々のソーシャルワーク実践に最善が尽くせるように、学びと実践、研究と人材育成に最大限の力を注ぐこと。これが私のポリシーです。

自分の選んだ大好きな仕事（社会福祉士）と職場（徳島県鳴門病院）、そしてこの徳島と言う地域で、沢山の患者さんやご家族、そしてお世話になっている皆さんに社会福祉士として関われることは幸せなことです。だから毎日に感謝をしながら最善を尽くす。これからも患者さんや地域住民の健康とwell-beingのため、認定上級社会福祉士としてふさわしい実践を積み重ねて行こうと思います。皆さんの中でスーパービジョンを受けたい方、学会発表に挑戦したい方、職場内研修や地域の多職種研修で講師に来てもらいたいと言ったお声があればどうぞ遠慮なくお声かけください。可能な限り対応しようと思います。

徳島県社会福祉士会 2026年度予定

事業・研修名	開催時期	事業・研修名	開催時期
基礎研修Ⅱ	6月～1月	国家試験対策模試	10月
基礎研修Ⅲ	6月～2月	国家試験対策講座	10月～11月
第35回定時総会	6月下旬	ぱあとなあ名簿登録研修	3月上旬
第30回福祉実践セミナー	6月下旬	社会福祉士だより30号発行	3月上旬
ソーシャルワーカーデー	7月上旬	第31回福祉実践セミナー	3月下旬
基礎研修Ⅰ	9月～1月	第36回定時総会	3月下旬

編 集 後 記

入会募集!

四国地区社会福祉士合同研修会が盛大に行われ、無事に終了したことを感謝申し上げます。私事ですが、初めて広報委員となり、右も左も分からないまま、先輩広報委員の方に色々とお教わりながら参加させて頂いています。私は、相談支援専門員として勤務しながら、趣味でマラソンをしています。先日のつくばマラソンでは3時間26分のセカンドベストでした。

総務・広報委員 天野 弘美

【発行責任者】湯浅 雅志

【編集】一般社団法人徳島県社会福祉士会総務・広報委員会